

霧島の山々

霧島連山は、硫黄山、韓国岳、新燃岳、御鉢、高千穂峰など、二十を超える火山の山塊です。霧島連山は、霧島錦江湾国立公園の北部にあり、鹿児島県と宮崎県にまたがっています。

加久藤カルデラの南端に位置するこの地域は、険しい山々、高原、切り立った渓谷など様々な地形を擁しています。この地域の植物多様性は、それぞれの生育地の標高差と過去の火山活動の影響に由来します。

夷守岳

夷守岳は霧島山地の北東に位置する成層火山です。この火山の標高は 1,344 メートルに達し、その形状が富士山に似ていることと生駒高原にあることから生駒富士としても知られています。

夷守岳山では約 4 万年前に大規模な噴火がありましたが、火山活動がすぐに再開し、短い期間に現在の形になりました。

大幡池

海拔 1,234 メートルの場所にある大幡池は、霧島連山の北東に位置する火口湖です。池は直径 460 メートルで、11,000～6,300 年前に起こった火山活動に伴う水蒸気爆発によって形成されました。池の周辺では、アオバトやアオゲラのような野生生物に加え、ルリボシヤンマやネキトンボなどのトンボが生息しています。池の水は小林市の灌漑に使用されています。

大幡山

大幡山は、霧島連山の北東に位置する 1,352 メートルの成層火山です。

初夏には、群生するミヤマキリシマツツジの花で山腹の景色が活気づきます。大幡池の澄んだ藍色の水が湖畔の木々を映し出します。大幡山の頂上からは、霧島の山々を一望できます。

獅子戸岳

海拔 1,429 メートルの高さに達するこの火山は、霧島連山の中心部にあります。数万年前の火山活動の間に形成された山で、山頂の西側には今でも浅いクレーターの痕跡が残っています。獅子戸岳からは、近くの新燃岳の火口を見ることができます。